編集後記

春の訪れを感じる季節となりました。庭先では梅の花がほころび，ふと耳を澄ますと，冬の間は静かだった鳥のさえずりが少しずつ賑やかになってきました。新しい季節の到来とともに，気持ちを新たにする思いがいたします。

さて，72巻3号は，原著4編，資料2編と6編を掲載しており，そのうち3編が英文です。まず，原著ですが，第1の論文は，高校2年生を対象に全国調査を行い，ロジックモデルを基に33項目のうち，どのようながん教育初期アウトカムが，生徒のがんリスク認知に関連しているのかを検討した研究です。その結果，25項目のがん教育初期アウトカムが関連していることが示されています。第2の論文は，国民健康保険加入者データを用いて「20歳から10 kg 以上の体重増加の有無」と肥満の有無の組み合わせが，糖尿病新規発症に与える影響を検討した研究です。非肥満者にとって体重増加は，糖尿病発症のリスクであることが報告されています。第3の論文では，COVID-19の流行下における保健所職員のバーンアウトと退職意向の関係を検討した結果，バーンアウトの予防や軽減のための介入が不可欠であることが示されています。第4の論文は，人とのつながりの概念を詳細に検討し，高齢者の主観的なつながりを包括的に測定する尺度開発を目的とした研究です。

次に資料として，第5の論文では，終末期高齢者の居所の移動，すなわちリロケーションをテーマとした研究です。終末期高齢者のリロケーションは負担が大きいことから，その対策の一助となるようリロケーションが起こる関連要因を介護レセプトを用いて分析し，リロケーションの発生には個人要因が，抑制には医療職の手厚い配置が関連していたことが報告されています。最後に，第6の論文は，3つの自治体の保健師，小児科看護師，保育士を対象に里親支援とそのニーズを明らかにした研究です。保健師，小児科看護師，保育士が里親支援に携わる機会や里親支援の研修会に参加する機会が限られているため，知識の普及が必要であることが述べられています。

今回は6編と多くの論文を掲載することができました。ご投稿いただき感謝申し上げます。公衆衛生の分野は日々変化し，幅広い社会のニーズに応じた柔軟な対応が求められます。本誌が，研究者，実務者の皆さまにとって有益な情報源となれば幸いです。

今後とも，より充実した内容をお届けできるよう努めてまいりますので，引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。　（田口敦子）

次号予告（第72巻・第4号）

原　著

新型コロナウイルス感染拡大下における高齢者のグループ活動の活動実態と再開・継続に関連する要因の検討 ……野中久美子，他

性別と年齢を考慮した生活保護受給者における入院受療状況の疾病分類別分析 ……渡邉英之，他

精神医療利用者を対象とした日本語版 PSAS（セルフアドボカシー尺度）の信頼性と妥当性の検討 ……濱田　唯，他

わが国の教育歴別死亡率の都道府県比較：国勢調査と人口動態統計のリンケージ研究（2010–2015年）……田中宏和，他

特別報告

COVID-19流行下の障がい児者，難病患者への支援：日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会　障がい・難病グループ ……谷掛千里，他

Letter

Navigating the evolving landscape of public health and social medicine: Opportunities and challenges for trainees in Japan's healthcare system ……Yoko Ishii